



EBISU_{san}

大田区立松仙小学校
令和3年11月1日(月)
裏研究推進だより 第16号
担当

1年生話題提供授業 協議会記録

成果

◎児童の様子

- ・十分な運動量があり、マットランドに夢中になる姿が見られた。
- ・ビンゴカードを見ながら楽しんで運動する姿が見られた。
- ・振り返りカードに一生懸命記入する姿が見られた。

◎教師の支援

- ・準備運動では、1年生に丁寧に説明しながら行うことで全員がしっかりと体をほぐすことができていた。
- ・マットランドの世界観を出すことで、児童の意欲が高まり、素晴らしかった。
- ・課題把握では、動きのコツを具体的に共有することで、その後の児童の運動の高まりにつながった。

課題&疑問

◎対話的な学び

- ・1年生の実態として対話は難しい。考えているけれど、言葉にすることは……。その中でも子供同士の対話や関わりが多いとより良かったのではないかな。運動量は十分だったので、伝え合いの時間とのバランスをどのようにとっていくか、考えていく必要がある。

◎安全面

- ・マットを1つ運ぶにしても気を付けなければならない。準備の段階で転んでしまったら、後の時間を見学、場合によっては次の週の授業を見学する場合も考えられる。4人組で持つ、2人組で持つなど実態に応じて徹底しなければならない。おススメは、マットを後ろ向き状態で歩かせないことだ。確実に横向きや前向きで運ぶようにすると準備や片付けで怪我をすることを防げるだろう。

◎教師が技のポイントを理解

- ・様々な技を教えるにあたって、教師がポイントを理解しておく必要がある。どこがポイントなのか、どうしたらできるようになるのか、より美しくするにはどうすればよいのかを分かった上で指導できるとより良い。実際に体を動かしてみたり、学年で検討してみたりすると発見があるかもしれない。

◎質問

- ・技のポイントをどのように抑えればよいのか。
- ・ルーティン(回り方)の理解は子供たちがどこまで理解できていたのだろうか。

☆「勉強になった!」ポイント☆

〈運動遊びの世界観〉

マット運動では、非日常的な動きが多くある。例えば、転がる・跳び越すなどは、日常生活では、なかなか経験できないことだろう。また、子供の中でも経験値が大きく異なる領域である。そんな中で、マットランドは、各活動場所で、様々な動きを経験させるとともに、「ぴたっとゾーン」、「とびこしコース」「ぴたっとコース」で子供がすすんで運動していた。様々な場を設定することで子供たちのやる気やワクワク・ドキドキ感を高めることにもつながったのだろう。今回の授業では、「マットランド」というテーマ(世界観)を十分味わわせていた。

☆運動遊びでもポイントは押さえる！

遊びを通して、様々な動きを身に付けていくことが大切である。1時間の中で教師が押さえるポイントは児童にしっかりと伝える。そのためには、技の行い方を教師自身が理解し、どのように補助したらできるようになるのかを事前に考え、授業に生かしていけるようにする必要がある。

☆器械運動の授業づくりを考える！

器械運動では、「逆さ感覚」、「腕支持感覚」、「回転感覚」、「振動感覚」を身に付けさせるために、授業を展開していくことが求められる。運動の特性を十分理解し、意図した学習過程の展開が求められる。昨今では、緊張と弛緩ができない子が増えているのではないかな。非日常的な運動感覚を十分経験させる必要がある。

キラリと光る付箋 文責：

- ・導入で次時の「マットランドがあるよ。」という声掛けが、子供の楽しみにつながった。
- ・テーマが子供に浸透していて、子供たちから「やりたい」、「マットランドへ行きたい」という声が聞こえた。
- ・友達の動きを見ながら、自分の動きを直そうとしていた。
- ・ある児童の川飛び越しの足の上がり方を褒めることで、他の児童も意識してできるようになった。
- ・「がんばれ。」、「足が高く上がっていて、サーカスみたい」など、励ましたり友達の様子を表したりしながら見ることができた。
- ・「線から落ちているよ。」、「もう少し、手をしっかり」などの子供同士の声掛けがあった。
- ・「どうしたらうまくできる。」、「どこが上がった。」など、問い返してポイントを考えさせていたのがよかった。
- ・ピタッとゾーンの5秒キープで、「1…、2…、3…4、5」と、最後に速くカウントしてあげて、「OK!」と言ってあげていたのが微笑ましかった。
- ・「それ、ちがうよ。」、「川に落ちているよ。」と、何とか友達に伝えようとする姿が見られた。
- ・1番楽しかった技に東京タワーを選び、「足を延ばすから」と理由を述べ、技の特性に楽しさを見い出していた。

先生の子どもたちへの声掛けや、子ども同士の前向きな声掛けが授業の前半で溢れていました。後半になるにつれて、友達を見るというより自分の運動に夢中になってしまうのは、1年生らしさかもしれません。そこで、教師としてどのように声をかけたり全体指導したりするのが大事なかかもしれないと思いました。